

農林水産省国立研究開発法人審議会水産部会  
第31回書面審議概要

水産庁増殖推進部研究指導課

「独立行政法人の目標の策定に関する指針」（平成26年9月総務大臣決定）に基づき、国立研究開発法人が中長期計画を策定するときは、農林水産省国立研究開発法人審議会に対して、第三者の立場から社会的な見識、科学的知見、国際的水準等に即して適切な助言を受けることとなっているため、当該事項を議題に持ち回り（書面審議）による同審議会水産部会を開催した。

1. 日 時：令和8年2月18日～25日

2. 審議委員：

大越和加委員、濱崎活幸委員、宮川幸奈臨時委員、横田絵理臨時委員、久賀みず保専門委員、水澤寛太専門委員、高須賀明典専門委員 以上7名（松本臨時委員は欠席）

3. 審議議案：

国立研究開発法人水産研究・教育機構の達成すべき業務運営に関する計画（中長期計画）の検討状況について

4. 書面審議概要：

令和8年2月18日～25日の期間、2名の委員、2名の臨時委員、3名の専門委員から意見が提出された。

提出された全ての意見を事務局から国立研究開発法人水産研究・教育機構（以下、「機構」という。）に繋いだうえで、それに対する機構の回答を事務局からまとめて全委員へ提示した。その結果、特段追加の意見はなかったため、別紙のとおり資料を確定させた。

また、意見を提出した全委員から「意見の取り扱いを部会長に一任することを可」と了解が得られたことに基づき、機構の中長期計画案については修正後の内容で審議会として異存はないこととされた。

## 委員の意見に対する水産機構の対応について

委員からの意見	水産機構の対応方針
<p><b>序文について</b></p> <p>P1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>我が国漁業が長年依存してきた<b>資源の不漁の増加</b>、磯根資源の減少、藻場・干潟の衰退など、<b>資源生態系</b>・漁業生産に深刻な影響を及ぼしている。→ 赤字の部分を確認し、より分かりやすい適切な表現に直すことを検討していただきたい【大越委員】</li> </ul> <p>P2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長期的な減少傾向にあり、→ 減少傾向が続き、【大越委員】</li> <li>養殖業においては、<b>国際競争力を有する生産体制</b>を確立するため→ 前後の文章の内容から、赤字の部分より分かりやすい表現に直すことを検討していただきたい【大越委員】</li> <li>食糧生産→ 食料生産【大越委員】</li> </ul> <p>P3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「本計画期間」とありますが、p.4以降では「本中長期目標期間」という語が用いられています。揃える必要はないのでしょうか。【宮川臨時委員】</li> <li>中長期目標の上から5-6行目には「研究セキュリティ・インテグリティの確保」が掲げられていますが、インテグリティに相当する文言が計画に含まれていません。計画の中の「知的財産の戦略的保護・活用、」に続けて、(どのようなニュアンスを求めるかにもよりますが)「研究成果の信頼性の確保」のような言葉を加えてはいかがでしょうか。【水澤専門委員】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご意見を踏まえて、前段は「我が国漁業が長年依存してきた魚種の不漁」に、後段は「海洋生態系・漁業生産に深刻な」に修正します。</li> <li>ご指摘のとおり「減少傾向が続き」に修正します。</li> <li>ご意見を踏まえて、「国際レベルでの生産体制を確立するため」に修正します。</li> <li>ご指摘のとおり「食料生産」に修正します。</li> <li>ご意見を踏まえて、「本中長期計画期間」に修正します。</li> <li>ご意見を踏まえて、「研究の健全性・公正性の確保」を「知的財産の戦略的保護・活用、」に続けて追記します。</li> </ul>

委員からの意見	水産機構の対応方針
<p><b>第1 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項について</b></p> <p>P4</p> <p>・「なお、期間中に中間的な評価を実施し、その結果に応じて研究開発内容を見直していく。」の文字サイズがここだけ大きくなっているように見えます。【水澤専門委員】</p> <p>P5</p> <p>・「配合飼料全量化」とありますが、意味がとりづらと思います。9 ページ下から4 行目の文言に合わせて「養魚飼料の全量を配合飼料給餌に転換」としてはいかがでしょうか。【水澤専門委員】</p> <p>P6</p> <p>・(1) 重点研究課題1. 適切な資源管理を実現するための研究開発 「国が推進する新たな資源管理システムの科学的基礎となる資源調査及び資源評価を行い、かつ、海洋環境と水産資源に関する長期的なモニタリング調査を今中長期においても継続する」とあるが、両者の違いは何か？【大越委員】</p> <p>P7</p> <p>・「その推移を可視化する。」について、「その変動を可視化する。」あるいは「その時空間変動を可視化する。」の方が適切ではないかと考えました。【高須賀専門委員】</p> <p>・「今中長期における資源評価への活用を目指す。」について、「活用」の具体的なところが読み取れませんが、もし、環境変動の影響とそれに伴う生態変動を資源評価に取り込むという意図であれば、それは非常に大きな躍進になるものと思います。【高須賀専門委員】</p> <p>・「プランクトン類」について、他では「動植物プランクトン」と表現しています。</p>	<p>・ご指摘のとおり文字サイズを合わせます。</p> <p>・ご意見を踏まえて、「養魚飼料の全量を配合飼料給餌に転換」に修正します。</p> <p>・前者は目標にあります資源評価の実施に対応している部分であり、資源評価計算に使用される資源評価対象の資源調査の記載です。一方、後者は、海洋環境、餌料環境、資源評価計算に用いられていないが資源の生物パラメータを調べるための資源調査、これらデータに含まれるが資源評価対象種でない資源等のモニタリング調査としての記載を示します。</p> <p>・ご意見を踏まえて、「その変動を可視化する。」に修正します。</p> <p>・ご意見ありがとうございます。ご認識のとおりとなりますが、期待に応えられるよう研究を進展させたいと考えております。</p> <p>・ご意見を踏まえて、「動植物プランクトン」に修正します。</p>

委員からの意見	水産機構の対応方針
<p>表現を変える理由がなければ統一された方が望ましいと感じました。【高須賀専門委員】</p> <p>P8</p> <p>・「環境変動に強いとされる野生魚の生態等について実態解明を進め、野生魚の自然再生産にとって有利な河川環境の諸条件を解明するとともに、非放流河川を含めて野生魚の資源への寄与を明らかにする。」について、意図は理解できますが、この文脈では、野生魚の資源への寄与というよりも野生魚と比較することで放流魚の寄与を明らかにするという流れの方が前後に対して合致しているように思えます。【高須賀専門委員】</p> <p>P10</p> <p>・「また、高成長等の優良形質の社会実装に貢献するためのゲノム情報と表現型情報を活用した選抜技術等の改良による育種、新たな仔稚魚用飼餌料や天然資源への依存を低減した代替飼料について研究開発を行う。」とあるが、これはクロマグロについてのことなのか。既存のクロマグロ、ニホンウナギ、サーモンについての記述はあるが、有望視される新たな養殖対象魚種についての同様な研究開発の記述はどこかに書かれてあるのか。それとも「等」に含まれていると理解するのか。【大越委員】</p> <p>・「形態異常等の改善」→「形態異常等の解決」？【高須賀専門委員】</p> <p>・「サーモン類」について、「さけます資源」(P8) と表現を変える対象の違いがあるのでしょうか。【高須賀専門委員】</p> <p>・「シラスウナギ生産の更なる高効率化、・・・」→「ニホンウナギでは、シラスウナギ生産の更なる高効率化、・・・」？【高須賀専門委員】</p>	<p>・ご指摘ありがとうございます。サケの資源においては、増殖事業（ふ化放流）により造成された個体の比率が圧倒的に大きいと認識されています。そのため、これまでは野生魚の資源量への寄与は無視できると考えられていました。しかし、近年、野生魚を親とする種苗の生残率が高い傾向にあるとの研究結果が報告され、野生魚由来の親魚の増殖事業への利用を検討する必要性が指摘されております。そのため、野生魚の生態ならびに野生魚個体群の把握が急務となっているため、このような記載としております。</p> <p>・本記述はクロマグロに限定したものではありません。当機構では、既存の主要魚種に加え、有望視される新たな養殖対象魚種についても、必要に応じて同様の育種技術や代替飼料の研究開発に取り組む予定です。これらの取組は、本文中では個別魚種を列挙せず、「等」を含む包括的な記述として整理しています。</p> <p>・ご意見を頂き、ありがとうございます。本記述の「改善」は、研究段階における着実な取組を示す趣旨で用いているものですので、このままの表現といたします。</p> <p>・ご指摘を頂き、ありがとうございます。「サーモン類」と「さけます資源」は、それぞれ養殖分野と資源分野において慣用的に用いられている表現です。文脈に応じた用語として使用しているものですので、現行の表現を用いることといたします。</p> <p>・ご指摘のとおり、本記述はニホンウナギを対象とする内容であり、その旨が分かるよう表現を補い「ニホンウナギでは、」と修正します。</p>

委員からの意見	水産機構の対応方針
<p>P13</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウ 生産・流通の現場ニーズに応じた技術開発・実証調査</li> </ul> <p>水産業の生産、流通の現場では、就業者の減少が続いているが、就業したくても就業を困難にする要因が存在する。「水産業従事者減少への対応として、漁労および加工現場への機器導入等による省人化ならびに作業の効率化を図るシステムを構築」と記述されているように、ハード面の機器の導入や新技術や効率化を図って減少に対応する一方で、多様な働き手（特に女性や高齢者）の参入が可能なようなソフト面を改革する（例えば機器を小型化する、軽量化する）、水産業の現場での種々雑多な無償で行うことが期待される作業（家族が手伝うことが期待されるような無報酬の労働）の経済的な対価を明確にするなどの構造面の改革が有効と思われる。これまでは、水産業に従事する働き手側の立場からの、今日の社会環境の変化に対応する対策についての調査研究が不十分。【大越委員】</p> <p>P14</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「～国際協力等を通じて我が国水産業を学ぶ～」の部分は、「～国際協力等を通じて我が国 “の” 水産業を学ぶ～」が適切ではないでしょうか。【宮川臨時委員】</li> </ul> <p>P16</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「内外の最新の研究・技術情報」について、内外というのを具体的に記述する方がよいと感じました。【高須賀専門委員】</li> </ul> <p>P17</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上から 6-8 行目の段落全体が一字右に寄っています。【水澤専門委員】</li> <li>・「水産機構をはじめとする研究機関」→「水産機構内の研究所をはじめとする研究機関」？【高須賀専門委員】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見を頂き、ありがとうございます。社会環境の変化に対応した構造面の改革については、行政側と方向性を検討し進めるべき重要な課題と認識しております。多様な担い手の視点を踏まえた漁業経営に関する調査研究を進めるため、次期中長期に向けて、経営経済研究を強化する体制の整備を検討してまいります。</li> <li>・ご意見を踏まえて、「～国際協力等を通じて我が国の水産業を学ぶ～」に修正します。</li> <li>・ご意見を踏まえて、「水産機構内の研究所や国内外の大学等による最新の研究・技術情報を取り入れた」に修正します。</li> <li>・ご指摘のとおり一字左に修正します。</li> <li>・ご指摘のとおり、「水産機構内の研究所をはじめとする研究機関」に修正します。</li> </ul>

委員からの意見	水産機構の対応方針
<p>P19</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「就職割合が80%」の「が」は不要。【水澤専門委員】</li> </ul> <p>P22</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャル・ネットワーキング・システム」→「ソーシャル・ネットワーキング・システム」？【高須賀専門委員】</li> </ul> <p><b>第2 業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置について</b></p> <p>P24</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「PMO」について、下の「BPR」に説明を入れるならば、ここも言葉を補足した方がいいかもしれません。【高須賀専門委員】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり「就職割合 80%」に修正します。</li> <li>・ご指摘のとおり「ソーシャル・ネットワーキング・システム」に修正します。</li> <li>・ご意見を踏まえて、「PMO（ポートフォリオ・マネジメント・オフィス）」に修正します。</li> </ul>